

行ってこーわい 会ってこーわい

「ボランティア AMI」

子どもたちの笑顔を増やす
児童館の活動をサポート

No. 67

児童館の活動でこだまする子どもたちの笑い声。その傍らには、子どもたちの姿を微笑ましく見守る「ボランティア AMI」の皆さんの姿があります。

「孫が県外に行ってしまっって、触れ合う機会がほとんどなくて…。孫も、住んでいる地域の人にお世話になっていると思うので、その分を自分が住んでいる地域で恩返ししたいと思いました」と話すのは渡瀬紀代さん＝昌農内＝。児童館の職員が少なく、サポートしてくれる人がいればという要望を聞いて、この団体を立ち上げた1人です。現在、10～70代の男女18人が、児童館の活動をサポートしたり卓球大会を主催したりして、子どもたちが笑顔でいられる時間を増やしていています。

「子どもたちの明るく元気な姿にパワーをもらっています。児童館を卒業した子どもたちと数年後に地域で出会ったときに、成長した姿を見られるのも楽しみなんですよ」と話す渡瀬さん。出会いと別れを繰り返し、AMIの皆さんは今日も「地域の息子・娘・孫」を増やし、交流を楽しんでいます。



1. 10～70代の幅広いメンバーで活動 2. 子どもに寄り添って活動をサポート

▼編集後記

卒業式を取材しました。子どもたちの堂々とした入場を見た保護者の涙。生徒の名前を読み上げる先生の涙。一言一言をかみしめながら答辞をする卒業生の涙。それを聞いていた仲間たちの涙。先輩との別れを寂しがる在校生の涙…。たくさん涙を見ましたが、きつと流した分だけ気持ちが晴れ、前へ向くことができました。入学式の取材ではたくさん笑顔を見せてほしいです。

（松田）

今月の特集を作っていると、新しい年度の始まりを実感しました。今、皆さんはどんな気持ちでいますか？新しい環境に緊張している人、一年経ち今の環境に慣れ心の余裕が出てきた人…、さまざまだと思います。

環境の変化があってもなくとも、大切なのは心の余裕を持って、でも、程よい緊張感はずれずに取り組むこと。みんなで心機一転。新たな気持ちでスタートを切りましょう。

（久保）

Proud!
Japan

※日本児童館協会を支援しよう

平成 26 年度

義農祭

義農作兵衛の
遺徳をしのんで

享保の大飢饉の際後世に麦種を残すため
自らの命を犠牲にして亡くなった
義農作兵衛をしのび義農祭を開催します。

日時 4月23日(水) 9時30分～

場所 義農公園

内容 式典、撒餅、各種特産物などの即売

☎ 総務課企画政策係
985-4103

